駅前に残されていた自転車（2015.11.28）

駅の再開に向け自転車は撤去された（2016.6.18）

７月12日に再開した小高駅

ホームには試験運転車両が

フレキシブルコンテナの仮置き場

防波堤を作る工事現場

継続した取り組みで伝え続ける

「東日本大震災」被災地取材　分会ニュース一斉発行

ドコモ本部は、「『東日本大震災』の風化に抗する取り組み」として、今年も現地取材による分会ニュースの一斉発行を継続し展開している。６月18日に取材した「東日本大震災」から５年・南相馬市のいまを伝える。

ドコモ本部は、前回の取材（2015年11月28日）に引き続き、分会と取材班を組み、福島県南相馬市を訪れた。

７月12日避難指示解除

南相馬市小高区は、その大半が東京電力福島第一原発から20㎞圏内にあり、原発事故後に約１万3000人が避難を余儀なくされた地域であったが、震災から５年が経過し、ようやく今年７月12日、避難指示が解除された。

ドコモ本部取材班は、避難指示が解除される約１ヵ月前（６月18日）の小高区の様子、解除に向けた現地の声を取材した（取材もようは７面）。

すべての分会で伝え継続する

避難指示解除に向け小高区の整備は着実に進んでいたが、避難指示解除後の課題が多いことも分かった。

昨年から３回にわたった取材で、「小高の変化」と「小高の人の思い」を実感し、継続した取り組みが持つ意味と重要性をあらためて確認した。各分会は本取材をもとに、組合員の皆さんに向け、南相馬市の現状を全体化するため分会ニュースを一斉発行している。

また、ドコモ本部は、８月の第20回ドコモ本部定期大会を福島県で開き、「『東日本大震災』の復興支援と風化に抗する取り組み」を継続し展開していく。

仲間の力で再選勝ち取る

第24回参議院議員選挙で、組織内候補『石橋みちひろ』が再選を果たしました。

ご支援いただいた組合員・家族の皆さんありがとうございました。

My Photo Album

Vol.244

東京で感じる「一体感」

ここ数年の趣味は、マラソン大会への参加です。

中でも一番楽しい大会は、「東京マラソン」。銀座や浅草など東京の中心部をコースとして走るのが楽しいのはもちろんですが、何よりの魅力は大会の「一体感」です。３万人を超えるランナーと沿道の応援が一体となり「東京が一つになる」のを42.195㎞途切れることなく体感できます！

皆さんも機会があれば、ぜひチャレンジしてみてください。

システムズ分会　西村　真二さん

ニーズを把握し組合員に寄り添った活動を

２分会合同山梨バスツアー

【Ｒ＆Ｄ分会】Ｒ＆Ｄ分会は、「ニーズの把握とていねいな情報共有で、組合員に寄り添った組合活動に取り組もう！」を目標に掲げており、組合員参加イベントの事前アンケートを行ないました。

その結果、アンケート上位に挙がった「ワイナリー見学」山梨バスツアーを、今年４月23日に、Ｒ＆Ｄ分会、テクノロジ分会と合同で開きました。本企画は観光バス１台を借り切り、組合員・家族の交流を中心に、春の山梨のおいしい食べ物を堪能する企画です。

出発地である神奈川県は曇り空でしたが、山梨県に近づくにつれ天気も良くなり、絶好のツアー日和となりました。

昼食には山梨名物ほうとうを、食後のデザートには真っ赤に熟れたイチゴが食べ放題のイチゴ狩りを、そして食後にはワイナリーで作りたてのワイン試飲の３本柱で構成された本ツアーは、参加した組合員、家族の皆さんも大満足の様子でした。

Ｒ＆Ｄ分会ではすべての活動で、組合員のニーズに応え、ていねいな組織活動を実施していきます。

（手島邦彦通信員）

赤坂点描

四月一四日の「熊本地震」発災から三ヵ月が経過したが、被災者の中にはいまだに車中泊を余儀なくされている方も少なくない▼発災直後には多く集まった全国からのボランティアもＧＷ後からは大きく減少し、被災者ニーズに十分応えられる状況にはない▼「東日本大震災」についても同様であるが、大規模災害からの復興・再生に向けては、被災地に寄り添った息の長い支援が必要である▼労働組合の役員として「社会的に価値ある運動」を推進するとともに、カンパ活動や被災地の商品を積極的に購入するなど、身近な支援から実践していく。（ジャイ）

7面では、被災地を取材した分会執行委員の感想を紹介しています。

ドコモ本部
ドコモ本部
〒107-0052
東京都港区赤坂2-4-5
国際赤坂ビル19F
TEL 03-3582-9381
FAX 03-5114-5444